

自治協会長会議で整理したコロナ禍における課題に関する情報共有について(中央区自治協議会 意見交換結果)(案)

※網掛け部分は会長会議における意見

1. 【意見交換】自治協提案事業のあり方について

新型コロナの影響により今年度事業が実施できていないが、年度後半での実施の可能性及び来年度以降の「with コロナ」時代に対応した自治協提案事業のあり方について検討する。

①: R2 事業の年度後半での実施の可能性(実施形態の変更内容など)

中央区ではイベント中心・事業ありきではなく、地域の課題解決に向けた取組みを委員自らが検討し、課題の深掘調査や事業を企画・運営する形で行っている。そのため、新型コロナの影響を受けているものの、柔軟に取組内容の見直しを行い実施できている。小学校への防災・歴史授業の事例紹介では、小学校でのモデル実施を通してまとめる予定だったが、委員だけでまち歩きを実施する方針変換を行い進めている。また、提案型協働事業では、応募が少なく、申請のあった事業も中止するものもあったが、新型コロナの状況下においても実践可能な活動事例を紹介し、本事業の活用に繋がるよう情報発信に努めることで、新たな申請が出てきている。

②: ①を自治協の部会等で検討する際に重視したポイント(実施形態の変更など)と「with コロナ」時代に対応した自治協提案事業のあり方について

イベント中心・事業ありきではなく、課題解決に向けた取組みとすることで、今回のような突発的な事態が発生しても、本来の目的を見失わずに機動的、柔軟な対応をすることができており、今後も課題解決に向けた提案事業を進めていく。

2. 【情報共有】防災強化に向けた、課題や取組みについて

台風シーズンを迎えるが、新型コロナにより各地域の縦・横のつながりが分断されている状況下で自治協の人と人をつなげ、地域と行政、各種団体等を結ぶ役割は大きいと考えられる。
有事に備え、防災強化(防災士等の人材育成、防災士の活用策、各自治会等での防災訓練の状況、区民の意識の啓発、各団体の取組みのサポートなど)について自治協としてどのように考えるか。

①: 住民による避難所運営にあたっての課題など、コロナ禍における防災に関する課題

コロナ禍での防災訓練について、訓練のあり方やルールなどどのようにすべきか、委員からの提案で自治協議会での議題として挙がり、担当課(中央区総務課)からの説明を求めた。説明のあった内容については、各選出母体で共有し、コロナ禍における防災訓練に活かされている。

②: ①の課題に対し、改善または強化につながる取組みの可能性(自治協として取組めそうな点も含む。)

地域での課題を自治協議会で共有したものであり、自治協議会本来の役割を果たしたのと考えられる。

3. 【情報共有・意見交換】会議の開催方法、それによる新たな体制・運営の確立について

会議をオンライン開催し、リモート出席を可能とすることはできないか(機運の視点も含む)。
あるいは、検討を行う中で、新型コロナの感染拡大を防止するだけでなく、会議の見直しにつながることはないか。

①: 選出母体や活動・勤務している団体等におけるオンラインの活用事例、その他活用事例に関する情報共有

【例】開催形式(個人宅/公共施設等の中継場所など)、機器の調達(個人で所有しているもの/レンタルなど)、オンライン会議の運営(進行等の勉強)

各委員にアンケート調査を行った結果、2・3号の委員からはWEB会議の実績があるとの回答があったが、1号委員(コミ協選出)からは経験がないとの回答が多く寄せられた。実績のある方は職場からの参加が多く、Wi-Fiの環境に左右されることや意思表示・多数決に苦慮するのではないか、主催者側(事務局)が慣れていないと混乱するなどの意見もあった。

②: ①を参考に、区自治協議会をオンライン開催する場合の課題と、それをクリアする方法

アンケート結果では、オンラインで開催する場合の環境が整っていない(パソコンなし、インターネット利用不可)とする回答もあり設備整備が必要である。また、開催にあたっては使い方の研修やハーサルなどの準備活動が必要との意見も寄せられた。このことから、オンライン開催については、課題が多いことや整備が必要となることから時期尚早であると考えられる。

<項目1～3に関するその他意見>